

GW明けの東京を襲うコロナ感染者急増不安…新変異株「XBB. 1. 5」系統が主流化

4/6 日刊ゲンダイ



新型コロナウイルスの第9波が立ち上がり始めた気配だ。東京都内ではオミクロン株の新変異株が広がり、新規感染者数が増加。感染法上の分類が季節性インフルエンザと同じ5類に移行するGW明けに、都内の流行がピークに達するとの予測もある。果たしてすんなりと正常化できるのか。

3月30日の都モニタリング会議によると、新規感染者数が11週ぶりに増え、29日までの1週間平均

は前週の1.4倍に膨張。懸念されているのが、感染力の強い新変異株「XBB. 1. 5」への置き換わりだ。

ゲノム解析結果では、長らく主流だった「BA. 5」を3月上旬に初めて抜き、25.8%を占めるまでになっていた（3月7～13日）。東京感染症対策センターの賀来満夫所長は「BA. 5に比べ感染力が1.43倍高く、免疫を逃れる力も強い。重症化しやすい株ではないが、動向をしっかりと見ていく」と警戒感を強めていた。

何かとイベントが多い春から初夏。コミュニケーション増加に伴い、ウイルスとの接触機会が増えるのは避けられない。マスク着用ルールの緩和から3週間経ったところでもある。

都内の感染者数をAIで予測している名古屋工業大の研究チームによると、この先のピークは5月上旬から中旬。感染力が第8波と同程度のウイルスが広がる中、人の移動がコロナ禍以前の状況に徐々に回復したとの前提で、マスク着用を「2割」「半数」「個人の判断に委ねる前と同じ状態」の3パターンで推計した。

「2割」の場合は5月9日ごろに新規感染者数が第8波の48%にあたる約8300人に、「半数」だと5月14日ごろに同26%の約4600人になると予測。マスク着用が緩和前と同じであれば、5月9日ごろに同15%の約2600人とした。

■60代の抗体保有率は2割台

昭和大医学部客員教授の二木芳人氏（臨床感染症学）はこう言う。

「昨年12月ごろから米国で急速に広がったXBB. 1. 5は、1月末時点で99%を占めるに至った。日本でも同様に比率は増えていくでしょう。ただ、幸いなことに国内の免疫保有率は上昇している。献血で残った血液を使い、感染によってできる『抗N抗体』を対象にした厚労省の調査（速報値）では、昨年11月時点の26.5%から今年2月時点で42.3%に跳ね上がった。若ければ若いほど抗体保有率は高く、16～19歳は62.2%に達しています。一方、60代は28.3%にとどまったことから、高齢者などを対象にした5回目の接種開始は5月8日から前倒し、今月中に実施した方がよかった」

当面、医療費は公的負担とはいえ、防御に越したことはない。